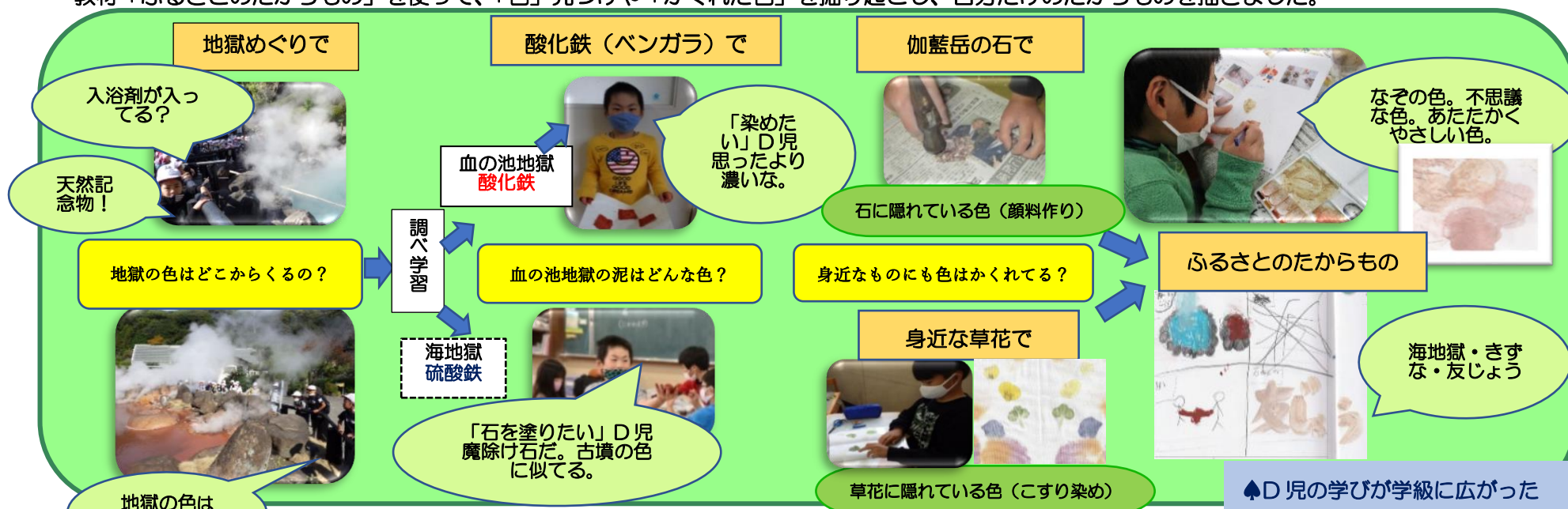


4. 効果検証

教材「ふるさとのたからもの」を使って、「色」を見つけや「かくれた色」を掘り起こし、自分だけのたからものを描きました。



「散歩の途中、別府石を教えてください。」 (Please teach me about Beppu stone during a walk.)

「酸化鉄とかベンガラとか難しいことを言います。」 (I use difficult words like iron oxide or bengara.)

「「遊びや学習に使ってください。」血の池地獄の事業主に、地獄の泥を提供していただく。」 (Please use it for play or learning. We provided hell mud to the business owner of Blood Pond Hell.)

「地獄へ連れて行って」と言われて一緒に行ききました。」 (We were taken to hell and went together.)

「参観日」 (Open House)

♠学級の学びが家庭に伝わった

♠学級と家庭の学びが地域に広がった

- 《取組を通して見えてきたこと》
1. 日常の何気ない景色も、その中の「色」を切り取って例示することで、子どもたちは、日常の自然や歴史に関心を向け、自分だけの「たからもの」を見つけるといったこと。
 2. 身近なものを教材とし、地域のよさや価値を再発見するなどの「感動」を味わうことで、家族や地域で話題を共有でき、学びは広がっていくということ。
 3. 学ぶことに喜びを感じれば主体的な学びにつながり、「ふしぎ」を感じれば、「なぜ？」という探究的な学びに向かっていくということ。（かくれた色を見つける活動より）
 4. 楽しく学び合う子供たちの姿や、そこに寄り添う保護者の姿を見た「地域の人たち」は、身近な自然や歴史に関心を持ち、その活用に向かうということ

5. 今後の課題

「もっと知りたい、調べたい」という子どもたちの意欲に寄り添う教材づくりとその効果検証